

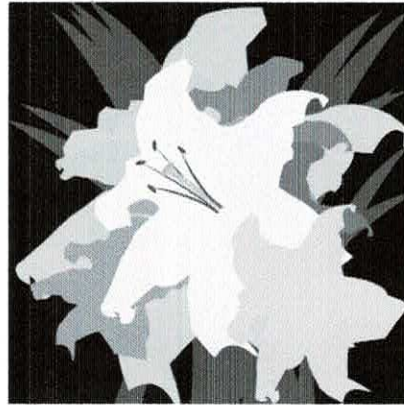
# 荻窪教会会報「つのぶえ」

## 2025年イースター・メッセージ

〈2025年イースター・メッセージ〉

### 共に歩く復活のキリスト

龍口 奈里子



(カット・杉本功雄)

【聖句】ルカによる福音書  
第24章13〜35節

今日はイースター。キリストが死者の中から復活したことを記念し、喜び祝う日です。

ルカが伝える復活の記事はまるでドラマの一場面のようです。

主が死んでちょうど3日目の夕刻、2人の弟子は暗い顔をしてエマオへ急いでいました。そのときキリストは二人に声をかけます。

「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」(17節)

しかしこのときすでに「イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始め」ておられたことに二人は全く気づかなかったのでした(15節)。彼らはエマオに到着したとき、遮られた目が開かれてようやくそれがイエスだと分かるのでした。彼らは言います。

「道で話しておられるとき、…わたしたちの心は燃えていたではないか」

(32節)

心が燃えたのは、復活のキリストがエルサレムからエマオへの道のりを一緒に歩いてくださったことに気づいたからだけではありません。自分たちが気付く前からキリストは出会っていて、共に歩き続けてくださり、復活後のさらなる新しい旅を準備して下さっていることに気づかされたからこそ、彼らの心が燃えたのでした。

前号の「つのぶえ」に遠藤妙子

姉が矯風会で働き始めたことを書いていました。木村房恵姉は社会福祉士の資格を取って、4月からソーシャルワーカーを目指して新しい道を歩み始めました。今井直子姉はシユタイナー手仕事というZOOMを聴講しつつ将来の自分の設計に役立つ道を模索し始めています。

ミリアムの会のメンバーには60年住み慣れた家から転居し、新しい交わりを始める方がいます。オルガニストたちは週報に前奏曲を記載することで、より深い奏楽を目指します。聖歌隊は新しい指導者を与えられて新しい曲に挑戦しています。

もちろん新しい出会いは、ときに不安に陥ることもあるでしょう。でもそのたびに復活のキリストが私たちの旅路を共に歩いてくださっていることを思い起こしましょう。

さあ、心が燃える新しいそれぞれの旅の一步を、イースターから始めていきましょう。